

平成31年第1回高梁市教育委員会（定例）会議録

1. 招 集 平成31年1月24日 午前10時00分
2. 開 会 平成31年1月24日 午前10時00分
3. 閉 会 平成31年1月24日 午前11時24分
4. 会議の種別 定例会（第1日）
5. 会議の場所 高梁市役所 4階会議室1・2
6. 出席、欠席した委員の番号及び氏名

議席番号	氏 名	出欠の別	備 考
1	川 上 は る 江	出 席	
2	吉 川 昭	出 席	
3	渡 邊 あ り さ	出 席	
4	藤 井 祥 生	出 席	

7. 説明のため会議に出席を求められた者の職氏名

職 名	氏 名	備 考

8. 会議に出席した者の職氏名

職 名	氏 名	備 考
教 育 長	小 田 幸 伸	
教 育 次 長	大 場 基 成	
参 与	田 村 啓 介	
教 育 総 務 課 長	大 福 克 志	
学 校 教 育 課 長	石 原 洋 重	
社 会 教 育 課 長	渡 辺 丈 夫	
ス ポ ー ツ 振 興 課 長 補 佐	福 本 喜 典	
文 化 セ ン タ ー 所 長 代 理	原 田 貴 子	
教 育 総 務 課 総 務 係 長	村 上 靖 恵	

9. 会議に付した議案の題目及びその結果

議案番号	件名	結果
議案第 1号	専決処分の承認を求めることについて	承認
議案第 2号	高梁市スポーツ推進審議会委員の委嘱について	可決

10. 会議録署名委員の番号及び氏名

第1番 川上 はる江

第2番 吉川 昭

11. 議事の内容

別紙会議議事要録のとおり

第1回教育委員会（定例）会議議事要録

1. 開会

教育長あいさつ

本日は、本年、第1回の教育委員会である。このメンバーでは初めての新年を迎えた。また、先日はご多用の中、成人祝賀式へ参加いただき感謝する。

仕事始の式で職員へ行った年頭あいさつの内容の一部を紹介し、あいさつに代えさせていただきたいと思う。

学校教育、社会教育・生涯学習、文化財、スポーツ推進のあらゆる分野で、今、流れが大きく変わろうとしている。特に今年は非常に大きな変化が起きると感じているし、我々も変化していかなければならないとも思っている。大規模災害が世界中で起こっているが、今の時代や気候は人類が作り出したものといえる。そうしたことへの反省や課題解決に向けた必要感から、いろいろなところで変化の動きが起こっているのだと思う。その動きを敏感に察知して、言われてから動くのではなく、自分たちから主体的に動いていこう。我々の業務は市民の皆さんや学校と直結した仕事であり、そうした日ごろの業務にコツコツと取り組む中で、業務の対象となっている人に思いをさせ、その中から疑問点や改善点をしっかりと見つけだす。その内容を精査し、また共有し、そして改革の必要があるとなれば機を逃さずやっいていこう。そのために、業務のスケジュール管理も今以上に徹底させてもらう。以上のような話をさせてもらった。

また、教育委員の皆さんには単に提出議案の審議をいただくだけではなく、皆さんとの情報交換や重要案件に関する事前の意見交換といった面をよりいっそう充実させることで、地域の声や皆さんの専門分野からのご意見を反映しながら、取り組む施策の最終的な形を作り上げていきたいと考えているので、ご指導をよろしく願います。

2. 前回教育委員会の報告

教育長	前回の報告に対する質問、意見等はあるか。 なければ承認の挙手を願いたい。 (全員挙手)
教育長	前回の会議録は、承認する。

3. 教育長の報告

(1) 行事等

12月25日(火)	CCC(高梁市図書館指定管理者)年末挨拶
12月25日(火)	岡山・津山教育事務所、生涯学習センター視察(高梁市図書館)
12月28日(金)	仕事納め
1月4日(金)	仕事始め
1月6日(日)	高梁市歴史美術館 特別展 「生きていく衝動 石村嘉成展～作品は、僕のことば～」開会式
1月9日(水)	県教育委員会来高
1月9日(水)	校園長会
1月11日(金)	復興対策本部会議
1月13日(日)	成人祝賀式

1月18日(金)	行財政改革推進本部会議
1月20日(水)	消防出初式
1月23日(水)	県PTA連合会研修大会(岡山シンフォニーホール)

4. 議事

教育長	議案第1号「専決処分の承認を求めることについて」専決第24号「高梁市スポーツ推進審議会委員の委嘱について」は、議案に沿って事務局より説明。
教育長	他に何か質問等はあるか。なければ承認に賛成の方は、挙手願う。 (全員挙手) 専決第24号は、承認する。 以上をもって、議案1号は、承認する。
教育長	議案第2号「高梁市スポーツ推進審議会委員の委嘱について」は、議案に沿って事務局より説明。
教育長	何か質問等はあるか。なければ可決に賛成の方は、挙手願う。 (全員挙手)
教育長	議案第2号は、可決する。

4. その他

- (1) 総合教育会議等の開催について(教育総務課長)
- (2) 高梁市図書館 中・高校生向けフランス語講座等について(社会教育課長)
- (3) 東京オリンピック・パラリンピック「フラッグツアー」について(スポーツ振興課長補佐)

教育委員	成人祝賀式には長年出席させてもらっているが、教育長も話されていたように、記念行事のマンネリ化、もう一工夫の必要性は感じている。ビンゴゲーム、恩師からのメッセージ映像など、全体の内容が混然としている。楽しむ部分と恩師のメッセージをきちんと聞く部分、構成をもっと工夫してもよいのではないか。例えば、メッセージ映像であるが、音声がとても聞き取りづらく、編集でテロップを入れるだけでもよりよいものになったと思う。新成人の実行委員だけでなく、専門的知識を有する人たちに助言や協力してもらおうことも必要ではないか。
教育委員	また、開催日程の検討はできないか。1月2日に開催している新見市の出席率は、高梁市よりもかなり高い。いろいろな協議を経て現在の開催日程になっていることも理解しているが、帰省しやすい時期の開催は出席率の向上も期待できると思うので、検討することも考えてみてほしい。
教育委員	今年の式でも、会場にハンドマイクを持ち込んでいた新成人がいたが、規制はできなかったのか。取り上げる、入場を断るなどの対応も必要ではないか。
教育委員	のぼり旗やハンドマイクを持ち込んだ一部新成人については、子どもころの無邪気さのまま、中学校や高校の文化祭のようなお祭り騒ぎの感覚でやっている行為のようにも感じた。そうした思いも理解してあげつつ、お祭りに楽しむ場であってもよいと思うが、やはり節目としての場であるので、これから社会人となり、いろいろな価値観の大人たちの中に入っていく新成人に対しては、「大人になるということとは」といった勉強となるような内容があってもよかったとも思う。
教育委員	きちんとしなければならぬ場での規制というものは必要と思うが、希望する人が参加して楽しむ、いわゆる二次会的な場では、ある程度自由にできるようさび分けして、ルールを決めた上で行ってもよいのではないか。
教育委員	これから未来に向けての弾みとなるような、新成人にとってプレゼントとなる企画が生まれてくればよいと思っている。恩師からのメッセージ映像も、そういった面を打ち出す編集となればもっとよいのではないか。ただ単に楽しんでもらうだけでなく、高梁市は成人となった皆さんに大いに期待しているといった思いがもっと伝わる内容になればよいと思う。

教育委員	<p>例年、新成人への記念品が贈られていたと思うが、今年はどうにしたのかも教えてほしい。</p>
社会教育課長	<p>第一部の式典については行政側主導で行っているが、第二部のお楽しみな部分でもある記念行事の内容については、新成人による実行委員会で決めている。新成人たちに主体的に決めてもらおうと、行政側としても、過去の実施例は紹介しても誘導はしないよう心掛けてはいるが、どうしても前例に倣ってしまう傾向にある。未来に向けてのプレゼントとなるような企画の立案を新成人にそのまま投げかけても難しい面はあるので、行政側での仕掛けづくりも必要であると思う。</p> <p>また、記念品についても予算の範囲は示すが、内容は新成人に決めてもらっており、ここ2年はオーダー式のシャチハタを記念品としている。</p> <p>恩師からのメッセージ映像については、映像編集が得意な実行委員がいた年などは順調に作業できたが、今年は得意とする新成人もおらず、式前日によく届いた映像もあって、ぎりぎりの作業になってしまったのが実態である。10月ごろから実行委員会を開催してきたが、今後はスケジュールの前倒しも検討していきたい。</p> <p>開催日程については、例えば1月2日の開催で出席率の向上は期待できるが、準備期間や来賓の調整、また今後は18歳での成人といったことも出てくるため、総合的に検討していく必要があると考える。</p> <p>ハンドマイクの持ち込みについては、内部の事前打ち合わせでの共通認識が徹底できておらず、受付でも注意をしたが、隠して持ち込んだようでは取り上げるまではできていなかった。</p>
教育委員	<p>成人式についての情報発信について、いくつか他市のホームページも確認してみたが、内容の詳細までよく分かったのは倉敷市のものであった。開催日時と場所の掲載だけでも周知になると思うが、実施内容もよく分かれば、参加を決めかねている新成人たちも行ってみようかという気持ちにもなるのではないだろうか。情報発信の方法も工夫してみてもどうか。</p>
社会教育課長	<p>ご意見のとおり、情報発信が弱い部分であることは十分認識している。大学へも開催告知のポスター掲示は依頼しているが、実際に見てもらっているのか検証まではできていない。ホームページの内容についても、目を引くまでには至っていない。開催後の情報発信として、実施内容を紹介するホームページを作成中である。</p>
教育長	<p>関係職員にも反省点などを確認しているところである。内容を振り返り改善点などを検討している今から、来年に向けて取り組む必要があると思う。新成人の主体性に期待はするが、新成人にとっては初めてのことである。やはり、行政側からある程度のヒントなり方向性を示すことは必要であろう。</p>
教育委員	<p>ツイッター、フェイスブック、インスタグラムを活用した情報発信もよいのではないか。公式アカウントはすぐ設定できるので、そこに「#成人式 高梁市」と書き込むことで情報を拡散することができる。当然、ウェブサイトにも同じ情報を掲載しておく必要はあるが、ツイッターなどは手軽にできる情報発信である。</p>
社会教育課長	<p>現在、庁内の広報関係者でSNSによる情報発信について研究中である。まだ公式アカウントがないため、研究を進めてもらっているところである。公式アカウントができれば、しっかりと活用して情報発信していきたい。</p>
教育委員	<p>成人祝賀式の参加対象者としては、例えば下宿して市内に住んでいる20歳を迎える人も参加可能なのか。</p>
社会教育課長	<p>市内に住所を有している人には、案内を送付しているが、住所を有していない人も参加いただくことは可能である。大学に掲示いただいた告知ポスターにも、住所を有していなくても参加できること、参加を希望する場合には社会教育課へ連絡してもらうことなどを記載している。また、進学などで市内から転出されていても、本人や家族から事前に申し込んでもらえば参加いただける。当日の飛び入り参加になったとしても、配布物の予備も準備しているので対応は可能である。</p>
教育長	<p>市内の中学校を卒業した転出者に対しても案内を送っていないか。</p>
社会教育課長	<p>転出状況までは確認ができないため、案内の送付は住所を有している人のみとしている。案内送付の対象とならない人については、ホームページの確認や友だち同士の声掛けで、参加を申し込んでもらっている状況である。</p>
教育委員	<p>現在、幼稚園やこども園の所管は市長部局のこども未来課となっており、教育委員会としては指導部分を担っている。卒園式に2年前から教育委員も出席するよう</p>

社会教育課長	<p>になったが、市長メッセージを教育委員が代読している。式には地域市民センター長や地域局長も出席されており、以前のように市長部局の地域市民センター長などが代読される方がよいのではないかと。園児たちにとっても、教育委員よりも地元の地域市民センター長の方が身近な存在である。</p>
教育長	<p>教育委員による市長メッセージの代読については、市や教育委員会を代表して来賓が出席されるのであれば、その方に代表してあいさつしてもらえばよいのではとの地域市民センター長からの提案があり、各地域市民センターの聞き取りも行った上で、現在の形に変更させていただいた経緯がある。</p>
教育委員	<p>ご意見は所管課にも伝えておくと、教育委員会が担っている指導部分というのは毎日のことであり、やはり園との関わりも深い。あいさつの内容については、もっと短く平易に3歳児にも分かるような内容に見直すべきと思っており、その点はもっと要請していきたい。</p>
教育長	<p>高梁は柔道が強い地域だと思うが、部活としての柔道部はない。例えば、女子サッカーの吉備国際大学シャルムも全国から選手が集まってくるが、市内で小さいころから繋がっていく流れはまだ十分ではないと思う。幼稚園、小学校、中学校、さらにはプロまで進めるようなスポーツの導線を作っていけば、市としてのブランディングにも繋がるように思う。そうした議論をしてもよいのではないかと。</p>
教育次長	<p>現在、策定中のスポーツ推進計画の内容を充実させていく手法もある。今後、提出する計画の素案に対してもご意見をいただき、反映できればと思う。</p>
教育長	<p>新見市では、地域でソフトボールに特化した取り組みの流れがあり、小学校、中学校、高校、社会人チームに繋がり、その流れの中でだんだんと力を付けていく。高梁市では野球があったが、徐々に縮小傾向にあり、現在はサッカーが強くなってきているものの、中学校では高梁中学校にしか部活動がないという現状もある。</p>
教育委員	<p>サッカーは、スポーツ少年団から高梁中学校、高梁高校、吉備国際大学への導線がかなり繋がってきている。また、小学校のサッカーの授業をシャルムが実施してくれている。しかしながら、まだまだチームや指導者の努力によって成り立っている部分が大きく、全市的なプログラムとして、さらに広がりを見せることができればよいと思う。</p>
教育長	<p>指導者たちが努力され広げていこうとしている段階で、市としての方針を固める必要があると思う。各団体が少ない子どもたちを取り合っている状況もあるし、市内では競技が続けられないために家族で引っ越してしまった例もある。</p>
教育委員	<p>子どもが減少する中、学校の部活動の一つとして独立させていくことには限界があり、社会体育との両面で取り組んでいく必要があると考えている。また、市内だけで完結させることも難しくなっている。例えば、シャルムも倉敷市、総社市、高梁市、新見市のラインで選手の育成・獲得を考えている。広域化は人材の取り合いという面もあるかもしれないが、子どもたちにとってみれば自分が抱いた夢へと繋がる道筋の可能性が広がる。</p>
教育委員	<p>そのためにも、ブランディングが必要であると思っている。</p>
教育長 社会教育課長	<p>旧吹屋小学校の保存修理の進捗状況、修理後の活用案の検討状況を次回にでも教えてほしい。訪れる観光客の皆さんも残念がっており、工事のための建物の覆いが外されるのはいつ頃になるのか、ある程度の見込みが分かればと思っている。また、オープンが決定すれば、映像制作の協力を申し出ている吹屋出身でアメリカ在住のマットペインター・谷雅彦さんへの連絡も必要になると思う。</p> <p>活用案についても、先般、岡山城の夜間貸出が好評と話題になっていたが、こうした貸出事業もできるのか。または、懐かしの給食の提供で人気の旧遷喬小学校のような取り組みができるのか。あるいは、記念館的な活用とするのか。これまでの協議で決まった方向性を知りたい。</p> <p>関連して、吉岡銅山跡の調査研究の状況も教えてほしい。</p> <p>次回教育委員会にでも、資料を準備して協議の時間を設けたいと思う。</p> <p>旧吹屋小学校の保存修理工事は、柱の建込が始まった段階であり、工期的に厳しい状況。</p> <p>活用については、地元の皆さんとの協議の場の準備を進めているところであるが、建物自体が文化財であり、その保存修理を行っている。完成するのはアミューズメ</p>

<p>参与</p>	<p>ントパークでもホテルでもなく、「学校」であることを十分に理解いただいた上で、どのように活用できるか考えていただく必要がある。また、旧吹屋小学校単体で活用方法を考えて成果を出すというのは無理である。吹屋全体、吉岡銅山なども含めた広いエリアでの地域活性化や観光による交流人口の拡大、そういったところを皆さんと話し合っていきたいと考えている。</p> <p>全体を考える中で、地元として活用したい案を提案いただいて協議を進めるとともに、文化財の価値を損なわない範囲での利活用に関する画期的な外部提案があれば、並行して検討していきたいとも思っている。</p> <p>吉岡銅山に関しては、昨年、調査委員会を立ち上げた。調査委員会には鉱山史の専門家にも入っていただき、吉岡銅山の歴史的な意義、文化財としての価値評価についての調査研究をお願いしており、第1回会議では現地の状況も確認いただいた。今年度は国の補助金を活用して鉱山城の測量調査を計画していたが、豪雨災害を受け、事業の一部を次年度以降に延期している状況である。</p> <p>吉岡銅山は、近世から近代にかけて、西日本を代表する銅山の一つであったと評価されている。生産量等のいろいろなデータを調査していくと、別子や足尾という日本を代表する銅山に比べると生産量の桁が違い、規模的には劣っている。</p> <p>しかし、ある専門家の先生のご意見を紹介すると、足尾銅山は非常に大きな銅の鉱脈があって二つの方向から採掘しており、産業に関する知識を何も持たない人が見学しようとする、採掘現場である坑道、精錬する場所、製品として出荷する場所、ものすごい距離を移動しながら訪ねて、初めて生産工程の全容が把握できるという状況である。一方、吉岡銅山については、吹屋・坂本エリアのコンパクトな範囲に、採掘現場、精錬所、さらには製品を輸送したトロッコ道も成羽川沿いの左岸に残っており、生産から流過程における遺跡が非常に凝縮していることが大きな特徴である。産業遺跡というのは消えた産業であるため、なかなか実態の把握ができない状況にあり、廃屋や廃墟となったものを見るのが現状であるが、吉岡銅山はコンパクトなエリアにまとまっているので、産業遺跡としては非常に理解しやすいものである。歴史的、文化財的な評価は、そういうことを勘案していけば高いものがあるのではないかと。</p> <p>また、他の銅山にない吉岡の特徴として、黄銅鉱の鉱脈に隣接して硫化鉄鉱の鉱脈があり、江戸時代からであるが、邪魔者として捨てていた硫化鉄鉱を活用して、ベンガラという新しい地場産業ができた。銅の場合は、三菱や住友という大財閥が関与してくるが、ベンガラに関しては、いわゆる家内制手工業的なものとして地元の経営者が関与していく。銅とベンガラ、全く違う特徴の二つの産業が並行して成り立ち、同時に同じエリアに展開しているということは、産業遺跡としてまた違う評価ができる。ストーリーの捉え方を考えていけば、高梁市が将来目指している国の文化財としての史跡指定も十分に可能であるとの評価をいただいている。</p> <p>ただし、そのためには、発掘調査による遺構の残存状況、文献等の調査による生産状況の把握など、バックデータをさらに付け加えていく作業が必要となる。そうした作業に何年かかるか分からないが、地道な取り組みを続けていけば、国の文化財指定は決して不可能なことではないということで、今後も限られた予算の中で、引き続き調査研究を進めていく。</p>
-----------	--

5. 閉会 午前11時24分閉会

高梁市教育委員会会議規則第21条第2項の規定により、ここに署名する。

平成31年 7 月 20 日

署名委員 川上はる江

署名委員 吉川 昭

作成職員 村上 靖恵